

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 107 ~ 108 円台での推移か

[7月15日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		7月8日~7月12日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.43	108.99(10)	107.86(11)	108.54	+0.07
ユーロ・ドル	1.1223	1.1286(11)	1.1193(9)	1.1252	+0.0027
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,628.99	-117.39	日本10年債利回り	-0.119	+0.036
ダウ平均株価	27,088.08	+165.96	米10年債利回り	2.138	+0.104
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 15日 英7月ライトムーブ住宅価格
中国第2四半期国内総生産 (GDP)
中国6月鉱工業生産指数、中国6月小売売上高
スイス6月生産者・輸入価格
米7月NY連銀製造業景気指数
- 16日 NZ第2四半期消費者物価指数
英6月雇用統計
ユーロ圏5月貿易収支
独7月ZEW景況感指数
米6月小売売上高、米6月輸入価格指数
米6月鉱工業生産・設備稼働率
米5月対米証券投資
- 17日 英6月消費者物価指数、英6月生産者物価指数、英6月小売物価指数
ユーロ圏6月消費者物価指数確報値
米MBA住宅ローン申請件数
米6月住宅着工件数・建設許可件数
カナダ6月消費者物価指数、カナダ5月製造業出荷
米地区連銀経済報告 (ページブック)
- 18日 日本6月貿易収支
豪6月雇用統計
英6月小売売上高
米7月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数
米6月景気先行指数
- 19日 日本6月消費者物価指数
独6月生産者物価指数
ユーロ圏5月経常収支
カナダ5月小売売上高
米7月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米長期金利は低下傾向にあり、これがドル円の重石となっている。
ただ、107円を割り込んで下げるほどの弱さもない。このため、目先は107~108円台で一進一退の動きになるとした。

【パウエル議長の議会証言で利下げ観測が高まる】

5日に発表された6月の米雇用統計で、非農業部門雇用者数が前月比22.4万人増

となり、大方の事前予想の16.0万人増を大きく上回った。これを受けて過度な利下げ期待が後退した。米10年物国債利回りは、1.94%割れまで低下していたものの、2.03%台まで大きく上昇した。ドル買いの動きとなって、ドル円は108円台半ばまで上昇した。

強い米雇用統計を受けて、過度な利下げ期待がいったんは後退した。7月30～31日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、0.25%の利下げが有力で、一部には0.50%の利下げとの見方も出ていた。ただ、米雇用統計後は0.50%利下げとの見方は大きく後退した。

10日の米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の議会証言では、「6月FOMC以降、貿易問題を巡る不確実性と、世界経済に対する懸念が引き続き米経済の見通しを圧迫しているようだ」「インフレ圧力も抑制されたまま」と述べた。さらに「やや緩和的な金融政策の必要性が高まった」との見解を示した。パウエル議長の発言が、7月30～31日のFOMCでの利下げを示唆したと受け止められた。その後の議会証言の質疑応答で「6月雇用統計は見通しに変化を与えなかった」との発言もあり、ドル売り円買いの動きに傾いた。

また、10日に発表されたFOMC議事録（6月18～19日分）では、「利下げの根拠が強まったと多くが判断」「近い将来の利下げは衝撃への緩衝材と数人が判断」「多くがリスクは下振れと判断」と利下げや金融緩和策への肯定的な見方が多かった。

パウエル議長が利下げに動く意向を示したことで、11日の東京市場ではドル売り円買いが進んで、ドル円は一時108円を割り込んだ。ただ、11日発表の6月の米消費者物価指数のコア指数が予想から上振れしたこともあり、米長期金利の上昇やドル買い円売りとなり、ドル円は108円台半ばまで戻すこととなった。

米国株式市場でNYダウは過去最高値を更新しており、日経平均も堅調な動きを見ている。ただ、米国での利下げ期待からドル円は109円接近では上値を抑えられやすく、株高が円売りにつながりにくくなっている。もっとも107円を割り込むほどの弱さはない。こうした状況からドル円は107～108円台での推移が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、106.80～109.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、15日に米7月NY連銀製造業景気指数、16日に米6月小売売上高、米6月輸入価格指数、米6月鉱工業生産・設備稼働率、米5月対米証券投資、17日に米MBA住宅ローン申請件数、米6月住宅着工件数・建設許可件数、米地区連銀経済報告（ページブック）、18日に日本6月貿易収支、米7月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米6月景気先行指数、19日に日本6月消費者物価指数、米7月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは下げ渋りに転じる】

ユーロドルは5日の強い米雇用統計を受けて、ドル買いの動きとなって1.12ドル近辺まで下落した。8日の週にも上値の重い動きとなって、一時1.1200ドルの節目を割り込んだ。ただ、10日のパウエル議長の議会証言で今月のFOMCでの利下げ期待が広がると、ドル売りユーロ買いの動きとなって、1.12台後半まで戻すこととなった。

ユーロ圏の経済指標は低調なものも多く、ユーロを積極的に買い進みにくい。こうした中、米国での利下げ期待がドル売りにつながりやすく、ユーロドルは堅調な推移を続けることとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1200～1.1350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、15日に英7月ライトムーブ住宅価格、中国第2四半期国内総生産（GDP）、中国6月鉱工業生産指数、中国6月小売売上高、スイス6月生産者・輸入価格、16日にNZ第2四半期消費者物価指数、英6月雇用統計、ユーロ圏5月貿易収支、独7月ZEW景況感指数、17日に英6月消費者物価指

数、英6月生産者物価指数、英6月小売物価指数、ユーロ圏6月消費者物価指数確報値、カナダ6月消費者物価指数、カナダ5月製造業出荷、18日に豪6月雇用統計、英6月小売売上高、19日に独6月生産者物価指数、ユーロ圏5月経常収支、カナダ5月小売売上高などがある。

(ミンカブ 佐藤昌彦)

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。